

ハンド 中学新人

ハンドボールの第9回浦添市長杯争奪第40回県中学新人大会は19日、浦添市民体育館で最終日を行い、女子決勝で美東が27-14で神森を破って、初優勝を飾った。

男子決勝は神森が24-16で港川を下し、6年ぶり13度目の栄冠に輝いた。

男女優勝校は全国選手権大会(3月23-27日・富山)に出場する。

優勝校を除く、男女4強以上の3チームは2月にリーグ戦を行い、上位2チームが九州選抜大会(3月23、24日・大分)に出場する。

▽連決勝

神	港
森 32	川 31
14 18	3 12
15 10	3 9
25	3 29
具志川	鏡
	原

▽3位決定戦

具志川 27	15 12	21
鏡	11 10	21
原		

▽決勝

神 森 24	13 11	16
港	7 9	16
川		

▽連決勝

神 森 20	2 17	10
仲	1 0	9
西	8 6	18
島	4 2	6
島		

▽3位決定戦

美 東 15	7 8	6
松	4 2	6
島		

▽決勝

美 東 27	17 10	14
神	6 8	14
森		

神森 男子 空中制覇

美東 女子 縦横初V



男子決勝 神森-港川 前半、神森の豊里友輔が中央から4点目のシュートを決める

後半速攻 走りきる

自慢の走力を存分に生かした美東が、決勝で神森を27-14で下し、初の頂点に立った。

スタメンのほとんどが駅伝や陸上の学校代表を兼ね、「走り勝負なら負けない」と又吉桂三監督。2点リードで迎えた後半開始直後からカウンターの速攻などで得点を重ね、中盤までに8点差まで引き離した。

中でも2人の「なつみ」の活躍が光った。要所で好セーブを連発したGK具志堅夏美主将は「ディフェンスが相手をサイドに追い詰めてくれたので、コースを読みやすかった。(準決勝も含め)2試合でみんな走り切れたのがよかった」と、試合内容に満足。「みんな走って、スピードで全国制覇したい」と、次なる狙いは全国の頂点だ。

金城菜摘は、数日前の練習で左足を捻挫し万全ではなかったが、小柄ながらも守備陣の上からロングシュートを打ち込み、チーム最多の11得点。けがで練習を休んでいたが、「監督から『大会で爆発させろ』と言われていたので頑張った」と発奮。「桂三先生とコーチの金城昂先生を全国に連れて行けるのがとてもうれしい」と笑みがはじけた。(石川亮太)

ハイライト

高さ 攻撃にリズム

男子神森は決勝で、昨年9月の八重瀬町長杯決勝で敗れた港川に24-16で勝ち、6年ぶりに全国の切符を手にした。

高さのある平仲航主将、豊里友輔を軸に攻撃を組み立て、後半に一気に突き放した。

相手エースへのパスを素早くカットし、カウンターでの得点が最多の得点の豊里は「決勝は絶対調だった。応援に来ていた先輩から決勝前に『長いパスを狙え』と言われていた。うまくいった」と大活躍。

「高さのある2人でリズムをつくって、みんな攻める。選手層が厚いのがうちの持ち味」と平仲主将。

全国では「上からの攻撃は厳しいと思うので、横から打つシュート技術を磨きたい」と、新たな武器を身につけ、全国制覇を目指す。

富間誠監督は「八重瀬町長杯で悔しい思いをし、気を引き締めて練習してきた。自分たちでアイデアを出し合うなど、努力の成果が出た」と手放しで喜んだ。

その上で「私にとっても全国は初めて。うちに足りない部分を模索し、素直な子どもたちがいい思いをさせた」と話した。

「私にとっても全国は初めて。うちに足りない部分を模索し、素直な子どもたちがいい思いをさせた」と話した。